



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	彙報・投稿規定・原稿書式・奥付
Citation	北方言語研究, 15
Issue Date	2025-03-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94629
Type	other
File Information	Information&colophone.pdf



❧ 彙 報 ❧

日本北方言語学会 第7回大会

日 時：2024年9月22日（日）

会 場：室蘭工業大学 + オンライン

【研究発表】

日高 晋介（筑波大学）「トルクメン語の必要性を表す二つの形式」

網谷 晃樹（東京外国語大学大学院）「トルコ語の反実仮想条件文の帰結節に生起する-mİş=(y)DI について」

江畑 冬生（新潟大学）「サハ語の多回接辞 (iterative) の多機能性」

プロコピエヴァ・マリア（東京外国語大学 AA 研）「サハ語における談話標識 söp の機能」

Martijn Knapen (Max Planck Institute of Geoanthropology) “Reconstructing Proto-Amuric (Proto-Nivkh) suprasegmentals”

落合 いずみ（帯広畜産大学）「上代日本語 marapito とアイヌ語借用形 maratto の歴史的考察」

深澤 美香；小野 洋平（国立アイヌ民族博物館；聖路加国際大学）「基礎語彙による方言分類の諸問題 —Asai (1974) のアイヌ語方言データを最大限活用するために—」

小野 洋平；深澤 美香（聖路加国際大学；国立アイヌ民族博物館）「言語・方言における規則性の数量化に向けた統計学的試み —Asai (1974) のアイヌ語方言データを例として—」

アルラ（東京外国語大学大学院）「受身から見た大塚保安語の主題化」

徐佩伶（淡江大学）「シベ語における量化副詞 gemu ‘all’ に関する一考察」

朴相澈（ソウル国立大学）「ホジェン語-kune の注釈：使役態か許容形か」

山崎 雅人（大阪公立大学）「満洲語文語の社会的規範語彙に付くふたつの具格助詞について」

風間 伸次郎（東京外国語大学）「統語的類型と形態的手法の間の内的関連についての考察」

ヌルミ・ユッシ（北海道大学大学院）「アイヌ語否定表現の語用論的研究 —口承文芸テキストを中心に—」

呉人 恵（北海道立北方民族博物館）「コリャーク語の形態的特異性と語類画定 —2 つのタイプの副詞節に着目して—」

長崎 郁（名古屋大学）「ユカギール語の引用表現：引用句における人称直示を中心に」

アクマタリエワ・ジャクシルク（東京大学附属図書館）「『中央ユーラシア文献コレクション』から一例」

菱山 湧人；ファイズエワ・ザリナ（日本学術振興会／新潟大学；所属なし）「サマルカンド・タジク語における2つの所有構造について」

【授賞式・総会】

・「津曲敏郎賞」授賞式 —第2回（2024年度）受賞者：日高 晋介 氏—

・役員（2024～2025年度） 会長：堀博文、事務局長：江畑冬生、幹事：呉人恵、児倉徳和、山田洋平、植田尚樹

【報告】会員数103名（2024年9月22日現在）

第8回大会開催校（聖路加国際大学）のお知らせ

日本北方言語学会 入 会 案 内

①年会費：当面徴収しない

②入会資格：北方言語研究に関心を持ち、本会の趣旨に賛同される方。ただし、北方言語に関する研究業績を2本以上公刊していること、あるいは、会員または指導教員等の推薦があること。

③活動内容
・研究会および国際シンポジウム等の開催
・学会誌『北方言語研究』の刊行（投稿は会員に限る）と会員への無償配布
・学会 HP および会員 ML による情報交換

④入会申込：以下について下記事務局あてにメールで通知（随時受付）

- ・氏名および所属
- ・送付物受領用住所（冊子送付を希望する場合）
- ・e メールアドレス
- ・研究業績（2点）または推薦者（氏名／e メールアドレス）

⑤事務局：江畑冬生（新潟大学人文学部） hoppougengo-owner@googlegroups.com

投 稿 規 定

2020 年 2 月 28 日改定

1. 投稿資格： 投稿は日本北方言語学会会員に限る。共著の場合は筆頭者がこの条件を満たしていればよい。なお編集委員会から、非会員に執筆を依頼することもある。
2. 原稿種別と内容： 原稿は北方言語にかかわる和文または英文による「論文」／「資料・研究ノート」とし、エントリー時にその種別を明示すること（ただし査読結果によっては種別の変更を提案することもある）。投稿は未公開の完全原稿に限り、投稿時点で他誌に応募していないこと、また既発表とかかわる部分については原稿中で明記すること。「北方言語」の範囲については、地域としておおむね北東アジアから北米まで、言語分類としてアルタイ諸語、アイヌ語、古アジア諸語、北米諸語を対象とするが、必ずしもこれ以外の言語を排除するものではない。
3. 著作権と二次利用： 写真・図版等の著作権等使用許可に関しては執筆者が責任を負う。掲載後の論文／資料・研究ノートを他誌等に転載したり、自サイトで Web 公開したりする場合は編集委員会の許可を得るものとする。
4. 投稿件数と原稿枚数： 原則として、同一著者による投稿は種別を問わず 1 号 1 件までとする。論文／資料・研究ノートとも原則として 20 ページ以内（規定の書式による仕上がりページ数）。超過を希望する場合は相談に応じる。
5. 査読： 論文／資料・研究ノートとも投稿後、2 名の査読を経るものとする。査読者は編集委員会が選定・依頼し、投稿者に対しては匿名とする。なお、本誌の趣旨に合わないとは編集委員会で判断した原稿は査読を行う前の段階で掲載を断ることがある。
6. 校閲と校正： 母語によらない原稿の場合（英文サマリーを含む）は必ず事前に母語話者の校閲（ネイティブチェック）を済ませること。別途定める「原稿書式」にしたがった完成原稿で提出してもらうが、印刷入稿前に著者校正 1 回を可とする。
7. 掲載誌進呈と Web 版の公開： 執筆者には掲載誌 2 冊を呈する。また、執筆者は Web 版（北海道大学学術成果コレクション HUSCAP）での公開にも同意するものとする（抜刷は提供しないが、Web 版からのダウンロードが可能）。
8. 原稿募集と編集日程： 毎年、学会ホームページ*および会員メーリングリストで通知するが、おおむね次のとおり。

8 月下旬	原稿募集
9 月下旬	エントリー締切、査読者選定・内諾
12 月中旬	原稿締切、査読者への送付（査読期間 3 週間）
1 月上旬	査読結果とりまとめ、著者に返送（修正期間 2 週間）
1 月下旬～2 月中旬	修正稿締切、査読者再チェック、編集作業、著者校正
2 月下旬	印刷入稿
3 月中旬	発行

9. 原稿提出： 事務局**あてにメール添付等で提出する。ファイルの形式とファイル名については「原稿書式」参照。

*日本北方言語学会ホームページ <http://janols.org/>

**日本北方言語学会事務局メールアドレス hoppougengo-owner@googlegroups.com

原 稿 書 式

2023 年 3 月 1 日改定

- ◆ ファイル形式： 原則として Windows 版 Word とし、PDF ファイルを合わせて提出すること。ただし、これによりがたい場合は事務局に相談すること。Word ファイルを用いる場合には、別紙スタイルシート（学会 HP からダウンロード可能）を使用すること。
- ◆ 判形： A4 判、マージン上下各 35 ミリ、左右各 30 ミリ。ページ番号・ヘッダーは編集サイドで付けるので、設定しないこと。
- ◆ 行数・字数： 1 ページ 39 行、1 行（和文）40 字程度（テキスト・語彙集などでは適宜設定可）。
- ◆ フォント： 和文原稿の場合、本文 明朝 10.5 ポイント、標題 明朝 12 ポ、氏名・所属 明朝 11 ポ、キーワードはゴシック 9 ポとする。標題・氏名・所属・キーワードとも中央寄せ。所属は（〇〇大学）のように機関名のみでカッコ付き（専任以外は博士課程、研究員、研究生等まで）。章見出しゴシック 10.5 ポ、英文サマリー Times New Roman 12 ポ。英数字はすべて Times New Roman を原則とし、全角英数字は使わない。例文表記等ではフォントの種類・サイズを適宜設定してよいが、（標準的に装備されていないような）特殊フォントを利用する場合は、フォント埋め込み保存またはフォントファイル添付とすること。英文原稿の場合、本文では Times New Roman 12 ポイントを基本とし、標題 16 ポ、氏名・所属 14 ポ、章見出しはボールド 12 ポ。
- ◆ キーワード： 氏名（所属）のあとに使用言語によるキーワード（5 つまで）をあげる。
- ◆ 注： 原則として脚注とし、和文 9 ポイント、英文 11 ポイントとする。文献への言及のみの場合は本文中にカッコ書きし、注にしない。
- ◆ 句読点： 和文原稿の場合、本文については「、。」を原則とする。ただし、英数字が連続する場合はカンマで区切る。また、参考文献リストでは「, .」とする。
- ◆ 文献・例文書式： 参考文献、例文の示し方等については『言語研究』執筆要項に準じる。参考文献リストにあげるのは本文中で言及・引用したものに限る。
- ◆ 英文サマリー： 和文原稿／英文原稿とも英文によるサマリー（20 行程度）を付ける。ただし英文原稿では英文サマリーに代えて和文要旨（和文標題付き、400 字程度）を付してもよい。和文原稿では、英語タイトル（各語の頭のみ大文字）、1 行あけて氏名英語表記（Taro KITANO のように姓は後で頭以外をスモールキャピタルとする）、所属機関名英語表記は（Hoppo University）のようにカッコ付きで。以上いずれもセンター合わせ。英文原稿では、Summary として英文によるサマリー本文または上記要領の和文要旨のいずれかを付す。
- ◆ 配列： 標題、氏名（所属）、キーワード、本文の後に、（必要に応じて）略号表、参考文献（引用文献）、英文サマリーの順で、改ページせずに（適宜行あけして）続ける。和文原稿ではサマリーのあとに 1 行あけて、10.5 ポイントで（きたの・たろう kitano_taro@hoppodai.ac.jp）のように、著者名ふりがなとメールアドレスをカッコ書き、右寄せで付す。英文原稿ではメールアドレスのみでよい。

本誌は令和 6（2024）年度科学研究費補助金（基盤 B）「環北太平洋危機言語の形成プロセスの解明に向けた地域類型論の構築」（代表： 呉人恵，課題番号：23K21929）による研究成果の一部である。

日本北方言語学会
北方言語研究 第 15 号

2025 年 3 月 20 日	発 行
編集担当	呉人 恵 (kurebito@hoppohm.org)
	堀 博文 (jjhori@shizuoka.ac.jp)
	江畑 冬生 (ebata@human.niigata-u.ac.jp)
	児倉 徳和 (koguran@aa.tufs.ac.jp)
	山田 洋平 (yamadabayar@tufs.ac.jp)
	植田 尚樹 (ucta.naoki.82x@gmail.com)
発 行	富山大学人文学部
	〒930-8555 富山市五福 3190 番地
印 刷	(株)なかたに印刷 富山市婦中町中名 1554 番地 23 号
